

カテゴリ名：

「D. 将来希望する進路について」

調査項目：

「Q.17 将来希望する進路について、お答えください」

「Q.18 大学が実施する就職支援対策について、意見・要望等を自由に  
入力してください」

## 1. 全体の傾向

学部生全体に占める教員就職希望者の割合は64%である。学年別に見ると、1回生は68%、2回生は64%、3回生は63%、4回生は60%であり、学年が上がるほど教員就職希望者の割合が減少している。

過去のデータを見ると、学部生全体の教員就職希望者の割合は、71%（4年前）→68%（2年前）→64%（今回）と推移しており、減少傾向にある。現3、4回生の2年前の調査結果を見ると、3回生については72%（2年前）→63%（現在）、4回生については58%（2年前）→60%（現在）となっている。

学年が上がるにつれて、教員就職希望者が減少するように見えるが、現4回生については、コロナ禍により教員就職希望者が増えた可能性がある。

教員就職率を上げるには「教員就職希望者を入学させる」、「入学後に進路変更する者を少なくする」の2つの対策が必要である。

就職支援に関しては多数の意見が集まった。教員就職の支援に対しては「満足」という回答が大部分であった。特にキャリアサロンの先生に感謝する回答が多数あった。多くの学生から出た意見として「企業就職、公務員就職の支援が少ない」、「インターンの情報をもっと知りたい」、「大学院の情報がほしい」、「1回生から、あるいは2回生から支援をしてほしい」、「奈良以外の支援、関西以外の支援、私学の支援を充実させてほしい」、「案内のメールが多数来るので、何がどのように重要かが分からない」などがあった。「キャリアサロンの先生を増やしてほしい」という意見もあった。

教育大学ではあるが、教員以外の就職支援についても検討する必要がある。また、就職支援は3年生後期から本格化するが、1、2年次における支援強化も検討する必要がある。

## 2. 特筆すべき事項

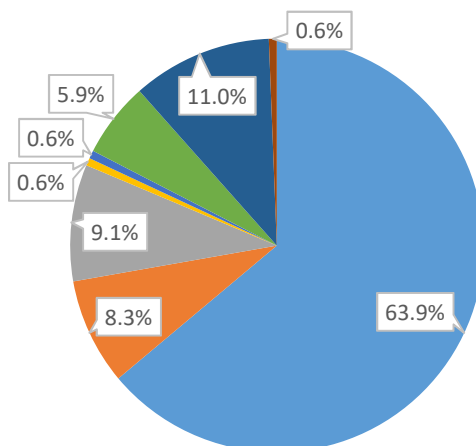
自由記述で出た意見はおおむね、過去のアンケートでも見られた意見が多かった。今回から初めて出てきた意見としてコロナ禍を反映して「オンデマンドで就職支援をしてほしい」、「説明会をオンラインでしてほしい」などの要望があった。

また、「早い学年からの就職支援」を求める意見が、過去の調査に比べると、大きく増えたという印象がある。

## Q.17 将来希望する進路について、お答えください

(学部生全体)

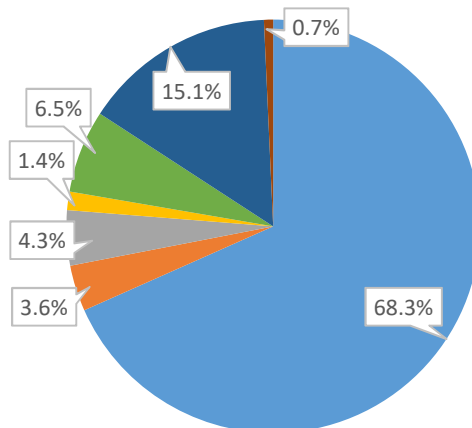
教員（保育士含む）	315
公務員（教員を除く）	41
民間企業	45
民間の教育施設や福祉施設	3
自由業・家業を継ぐ	3
大学院へ進学	29
未定	54
その他	3
計	493



### 【入学年度別】

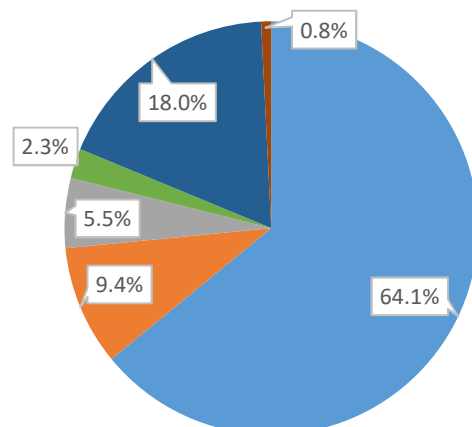
(令和3年度入学者)

教員（保育士含む）	95
公務員（教員を除く）	5
民間企業	6
民間の教育施設や福祉施設	2
自由業・家業を継ぐ	0
大学院へ進学	9
未定	21
その他	1
計	139



(令和2年度入学者)

教員（保育士含む）	82
公務員（教員を除く）	12
民間企業	7
民間の教育施設や福祉施設	0
自由業・家業を継ぐ	0
大学院へ進学	3
未定	23
その他	1
計	128

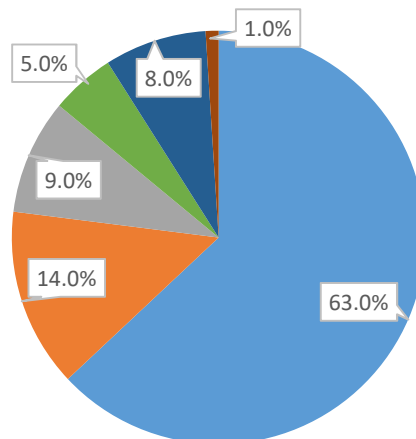


# Q.17 将来希望する進路について、お答えください

## 【入学年度別】

(令和元(平成31)年度入学者)

教員(保育士含む)	63
公務員(教員を除く)	14
民間企業	9
民間の教育施設や福祉施設	0
自由業・家業を継ぐ	0
大学院へ進学	5
未定	8
その他	1
計	100



(平成30年度以前入学者)

教員(保育士含む)	75
公務員(教員を除く)	10
民間企業	23
民間の教育施設や福祉施設	1
自由業・家業を継ぐ	3
大学院へ進学	12
未定	2
その他	0
計	126

